

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向 令和3年度6月号

○ 概要

- (1) 令和3年6月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,296億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+3.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,318円（伸び率▲3.7%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が1,689億円（伸び率+11.1%）薬剤料が4,594億円（伸び率+1.2%）、薬剤料のうち、後発医薬品が917億円（伸び率+8.0%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,427円（伸び率▲6.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.71種類（伸び率+0.7%）、27.6日（伸び率▲1.8%）、73円（伸び率▲5.7%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,667億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+16億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の660億円（伸び幅+39億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+44億円（総額413億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,667 億円 (+16 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(660 億円)	21 循環器官用薬 (622 億円)	11 中枢神経系用薬 (581 億円)
0歳以上 5歳未満	20.6 億円 (+5.2 億円)	44 アレルギー用薬 (7.3 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.7 億円)	61 抗生物質製剤 (3.3 億円)
5歳以上 15歳未満	71.5 億円 (+6.7 億円)	44 アレルギー用薬 (25.3 億円)	11 中枢神経系用薬 (23.0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(4.5 億円)
15歳以上 65歳未満	1,318 億円 (+47 億円)	11 中枢神経系用薬 (278 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(251 億円)	21 循環器官用薬 (191 億円)
65歳以上 75歳未満	888 億円 (+9 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(193 億円)	21 循環器官用薬 (173 億円)	42 腫瘍用薬 (133 億円)
75歳以上	1,369 億円 (▲52 億円)	21 循環器官用薬 (254 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(210 億円)	11 中枢神経系用薬 (184 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,318円（伸び率▲3.7%）で、最も高かったのは高知県（11,185円（伸び率▲2.6%））、最も低かったのは佐賀県（7,867円（伸び率▲1.1%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+3.1%）、最も低かったのは東京都（伸び率▲6.0%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.4 %	+1.5 %
薬剤料ベース	20.0 %	+1.3 %
後発品調剤率	77.7 %	+2.9 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.2 %	+3.4 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+8.0 %	+50.2 % (0歳以上 5歳未満)	+0.5 % (65歳以上 70歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	29.2 % (100歳以上)	11.0 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.4 %	87.0 % (100歳以上)	74.7 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	786 億円 (+56 億円)	21 循環器官用薬 (233 億円)	11 中枢神経系用薬 (132 億円)	23 消化器官用薬 (100 億円)
0歳以上 5歳未満	7.2 億円 (+3.3 億円)	44 アレルギー用薬 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.3 億円)	61 抗生物質製剤 (0.6 億円)
5歳以上 15歳未満	12.5 億円 (+0.9 億円)	44 アレルギー用薬 (7.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.2 億円)
15歳以上 65歳未満	260 億円 (+14 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (29 億円)
65歳以上 75歳未満	192 億円 (+13 億円)	21 循環器官用薬 (72 億円)	23 消化器官用薬 (23 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)
75歳以上	314 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (95 億円)	11 中枢神経系用薬 (55 億円)	23 消化器官用薬 (47 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,357 円	1,776 円(北海道)	1,126 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.3%	+6.0 %(秋田県)	▲3.8 %(東京都)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.4 %	89.9 %(沖縄県)	78.8 %(徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	23.5 %(鹿児島県)	17.1 %(京都府)
後発医薬品調剤率	77.7 %	83.2 %(沖縄県)	73.0 %(東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.2 %	66.7 %(沖縄県)	55.1 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。